

事業群評価調書(令和6年度実施)

基本戦略名	2-2 交流人口を拡大し、海外の活力を取り込む	事業群主管所属・課(室)長名	文化観光国際部 観光振興課	長野 敦志
施策名	1 地域に新たな価値を付加する魅力ある観光まちづくりの推進	事業群関係課(室)	文化振興・世界遺産課、港湾課、スポーツ振興課	
事業群名	① 地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの推進	令和5年度事業費(千円)	※下記「2. 令和5年度取組実績」の事業費(R5実績)の合計額	435,945

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)						(取組項目)				
観光客の満足度を高め、再び訪れたいと思われる魅力ある観光地を創出し、観光客のリピーター化と観光消費額の拡大を図るため、地域住民等が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりをさらに推進します。						i) 地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの先駆的な取組等に対する支援 ii) 高齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が楽しく安心して観光できるユニバーサルツーリズムの推進 iii) 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産の価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究・情報発信・意識醸成の取組の推進 iv) 構成資産の保護を担う集落等が活性化するための活動支援及び大学連携によるフィールドワーク等の促進 v) 構成資産や信仰の場を守るための教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入体制の整備 vi) 港のにぎわい創出による地域の活性化の推進 vii) サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化				
事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	観光客(宿泊)のリピーター率	目標値①		61.9%	63.0%	64.0%	65.0%	66.0%	66.0% (R7)	
		実績値②	58.6% (H30)	65.0%	58.4%	62.8%			進捗状況	
		達成率②／①		105%	92%	98%			やや遅れ	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	延べ宿泊者数	目標値①		842万人	872万人	878万人	885万人	891万人	891万人 (R7)	
		実績値②	836万人 (H30)	445万人	632万人	732万人			進捗状況	
		達成率②／①		52%	72%	83%			遅れ	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	観光消費額(総額)	目標値①		3,944億円	3,992億円	4,040億円	4,089億円	4,137億円	4,137億円 (R7)	
		実績値②	3,778億円 (H30)	1,859億円	2,731億円	3,535億円			進捗状況	
		達成率②／①		47%	68%	87%			遅れ	

2. 令和5年度取組実績(令和6年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位:千円）			事業概要 令和5年度事業内容及び実施状況 （令和6年度新規・補正事業は事業内容）	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和5年度事業の成果等
				R4実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R4目標	R4実績	達成率	
				R5実績					R5目標	R5実績		
				R6計画					R6目標			
				事業実施の根拠法令等								
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業		他の評価 対象事業 (公共、研究等)				
所管課(室)名			事業対象									
取組項目 i	○	1	「みんなで磨く！観光まちづくり」推進事業費	97,663	29,576	31,378	●事業内容 観光客の満足度を高め、再び訪れたいと思われる魅力ある観光地を創出するため、市町や観光関係団体等による観光まちづくりの取組を支援。 ●実施状況 市町や観光関係団体等が取り組む観光コンテンツの開発・ブラッシュアップや新たな観光交流拠点づくりなど、県内各地域における観光まちづくりの取組を支援した。	【活動指標】	6	12	200%	●事業の成果 ・工期の遅れや人材の確保ができなかったこと等の理由により成果指標を達成することができなかったものの、コンテンツの開発・ブラッシュアップや新たな観光交流拠点づくりなどへの支援を通して、今後の観光まちづくりの推進に向けた取組を進めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・市町や観光関係団体等が取り組む観光まちづくりの推進により、地域資源を活用した滞在型観光コンテンツの開発や新たな観光交流拠点づくりなどが進み、地域の魅力が向上した結果、観光客のリピーター化や観光消費額の拡大に一定寄与した。
				91,290	40,243	34,466			10	18	180%	
				112,585	66,626	31,124			8			
				長崎県観光振興条例				【成果指標】	100	67	67%	
			H13ー	100	67	67%						
			観光振興課	—	—	—			100			
取組項目 ii	○	2	ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業費	16,823	7,273	4,592	●事業内容 高齢者や障害のある方など、すべての方々が楽しめるユニバーサルツーリズムの受入拡大を図るため、民間団体等による持続可能な受入態勢構築を支援。 ●実施状況 タビマエやタビナカにおける相談対応や情報提供、車椅子の貸出、入浴介助などユニバーサルツーリズムに関する各種サービスを提供するワンストップ窓口として、民間団体が開設した長崎県ユニバーサルツーリズムセンターの運営支援等を実施した。	【活動指標】	500	395	79%	●事業の成果 ・長崎県ユニバーサルツーリズムセンター開設以降、相談対応件数、車椅子・ベビーカーのレンタル実績等や県内のユニバーサルツーリズムに関する提案件数も増加傾向にあり、センターの認知を広めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・指標に掲げる件数には至らなかったものの、センターからの提案を受けて、県内旅行に繋がる事例もあり、延べ宿泊者数及び観光消費額の増加へ寄与した。
				13,370	6,246	4,595			500	580	116%	
				19,406	6,689	3,891			650			
				ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業補助金実施要綱				【成果指標】 -R4: 県内宿泊施設へ紹介した観光客数(人)	100	1	1%	
			R2-7					R5-: ユニバーサルツーリズムに関する提案をした観光客数(人)	100	65	65%	
			観光振興課	—	—	—		民間団体等	100			

取組項目 iii iv	3	世界遺産を未来につなぐプロジェクト事業費				●事業内容 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の適切な保全や次世代への継承に向けて、構成資産の維持・活性化につながる構成資産の保存と活用のお好循環を創出する地元市町の取組を推進する。 ●実施状況 地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会を開催し、「世界遺産巡礼の道」等を回遊しながら参加できるフォトコンテストや、構成資産地域の特産品の展示販売会など、構成資産地域同士が連携した取組を企画し、実施した。 また、小学生を対象としたふるさと教育や県内大学との連携による世界遺産学習、地元キーマン・自治体職員への講座等を行った。	【活動指標】 情報交流会等開催回数(回)				●事業の成果 ・地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の開催や連携事業の実施により、構成資産地域同士の一体感が増し、横のつながりが強化された。 ・若い世代向けの世界遺産学習や講座等の実施により、将来に向けての世界遺産の保護意識の醸成に寄与した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・フォトコンテストや特産品の展示販売などの連携事業を行うことで、世界遺産全体として広く情報発信ができ、これらを担う人材の育成や、地域活性化へとつながる基盤づくりに寄与した。	
			1,518	923	12,254			3	3	100%		
			2,382	1,798	12,449			3				
			ユネスコ世界遺産条約									
			R5-6									
取組項目 iii v	○	4	世界遺産情報発信事業費	29,620	15,198	15,306	●事業内容 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の正しい価値理解や保護意識を醸成するための情報発信、12構成資産を総合的にPRする周知啓発等の取組を実施する。 ●実施状況 ホームページの改修や、長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群ウェブサイト「おらしょ」の定期更新を行うとともに、パンフレットの改訂や広報グッズ等の作成及び各種イベントでの配布など、県内外へ世界遺産の価値と魅力を発信した。 そのほか、調査研究の成果のデジタル化を実施した。	【活動指標】 世界遺産としての価値を伝えるためのパネル展や講座等のイベントへの参加者数(人)	15,000	19,121	127%	●事業の成果 ・ホームページの改修やパンフレット改訂、5周年記念イベント等により、世界遺産としての正しい価値の発信を行った。 ●事業群の目標達成への寄与 ・パンフレットやホームページおよびイベント等の開催を通じた世界遺産の価値と魅力の発信により、本県への来訪意欲向上につながる魅力発信に寄与した。
				25,181	14,036	15,318			15,000	30,359	202%	
				64,673	33,656	23,343			15,000			
				ユネスコ世界遺産条約					90	92	102%	
				H19-					90	96	106%	
取組項目 iii	5	世界遺産登録5周年記念事業費				●事業内容 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録5周年にあたり、更なる情報発信と周知啓発推進のため記念事業を実施する。 ●実施状況 ロゴマークによる登録5周年の周知や、デジタルスタンプラリー、著名人を招いてのトークショー、首都圏PRイベント、県内6箇所でのクイズウォーク、V・ファーレン長崎ホームゲームPRイベント、バスラッピング等の5周年を記念した様々なイベントを開催した。 また、登録から現在までの活動を振り返るとともに10周年に向けた保全・活用の機運醸成を図るため、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」長崎県世界遺産保存活用県民会議を開催した。	【活動指標】 イベント等の実施回数(回)				●事業の成果 ・5周年記念イベントを開催したことで、コロナ禍により打撃を受けた世界遺産登録効果の回復を図るとともに、これからの世界遺産の継承を担う若い世代をターゲットにした内容構成としたことにより、「潜伏キリシタン」になじみの薄い若い層へ世界遺産の魅力を発信することができた。 また、構成資産地域での活動状況の共有や特産品の販売により地域の魅力を発信できた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・イベントの開催を通じた世界遺産の価値と魅力の発信により、本県への来訪意欲の向上につながる魅力発信、保全・活用の機運醸成に寄与した。	
			18,897	10,280	22,977			6	6	100%		
			ユネスコ世界遺産条約									
			(R5終了)R5					15,000	21,112	140%		
			文化振興・世界遺産課									

取組項目 vi	○	6	港湾環境整備費（公共）	256,200	8,776	—	●事業内容 港湾の周辺環境を改善し、交流人口の拡大を図るための緑地整備を行う。 ●実施状況 川棚港他2港において、港湾周辺環境の改善、交流人口の拡大に資する緑地整備を実施した。	【活動指標】	3	3	100%	●事業の成果 ・交流人口の拡大を図るための緑地整備の進捗が図られた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・交流の拠点となる緑地整備を厳原港他3港で実施しており、港のにぎわい創出による地域の活性化の推進に寄与することが期待される。
				284,886	736	—		環境対策実施港数（港）	3	3	100%	
				435,750	363	—		【成果指標】	4			
				—				環境施設整備完了箇所（港）				
			H13-R7	—	—	○	港湾利用者					
取組項目 vii	○	7	サイクルツーリズム推進事業費	1,947	1,149	7,653	●事業内容 地域資源を活用したサイクルツーリズム振興を行い、交流人口の拡大等をおして地域活性化を図る。 ●実施状況 島原半島3市が島原半島観光連盟を事業主体として進めているサイクリストの受入環境整備に関して、定例会議を実施するほか、半島内でのモニターツアー・試走会や熊本県天草地域、大分県佐伯地域への視察、有識者を招聘した講演会開催に対する支援を行った。 九州各県と連携した取組として、九州・山口サイクルツーリズム推進委員会の契約アドバイザーによる講演会や担当者会議に出席し、意見交換を行うとともに、初開催となったツール・ド・九州2023の視察及び関係団体等へのヒアリングを実施した。	【活動指標】	10	17	170%	●事業の成果 ・県サイクルツーリズム推進協議会島原半島地域部会への参加や島原市及び南島原市でのモニターツアー、有識者を招聘した講演会の開催等への支援を通じた関係者間での課題の共有や解決を行うことで、島原半島地域におけるサイクリストの受入環境整備を推進することができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・サイクルツーリズムの推進に向けて、有識者や先進地の知見を取り入れながらサイクリストの受入環境整備を進めるとともに、地元の機運醸成を図ることで、交流人口の拡大に寄与することができる。 ・また、九州各県との連携で、より広域の人々へ訴求効果が図られ、さらなる交流人口の拡大に向けて基盤整備を進めることができている。
				803	480	5,361		サイクルツーリズム推進に係る関係団体との協議等回数（回）	15	17	113%	
				2,017	1,603	5,447		【成果指標】	15			
				—				サイクルリスト受入環境整備箇所数（箇所）	10	12	120%	
			R4-7	—	—		10	10	100%			
			スポーツ振興課	—	—	—	県民、市町、地元観光団体等、競技団体	10				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの先駆的な取組等に対する支援	●実績の検証及び解決すべき課題 地域主体の多様な関係者が参画する観光まちづくりの取組が少しずつ定着し、自立・継続的な取組も徐々に始まり出ているが、計画的な事業進捗の管理や計画策定には引き続き支援が必要な状況であるため、市町等とも連携しながら地域の観光まちづくり人材の育成に取り組んでいく必要がある。	●課題解決に向けた方向性 昨年度から、観光の専門家も入れた事業計画策定等の支援に取り組んでおり、地域主体の効果的で自立・継続的な観光まちづくりの取組を増やし、地域の魅力スポット創出による県内周遊を促進し、観光客のリピーター率向上や消費額の増加につなげていく。また、この取組を通じて市町や観光協会職員などの地域組織の自立的な活動を促していく。
ii	高齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が楽しく安心して観光できるユニバーサルツーリズムの推進	●実績の検証及び解決すべき課題 ユニバーサルツーリズムに関するワンストップ窓口である「長崎県ユニバーサルツーリズムセンター」について、相談対応件数や車椅子・ベビーカーのレンタル件数等、センターの認知・利用は着実に進んでいる状況であるが、引き続き更なる情報発信に取り組んでいく必要がある。また、ユニバーサルツーリズムの誘客・受入拡大に向けて、県内事業者等と連携しながら、センターの充実・強化に取り組んでいく必要がある。	●課題解決に向けた方向性 ワンストップ窓口としての窓口対応業務も増加しており、車椅子・ベビーカーにかかるレンタルシステムの活用など、システム化による業務効率化を進め、SNSを中心とした情報発信チャネルの拡大、センターの活動を理解いただける会員の確保等、誘客・受入拡大のための取組強化を図る。

iii	潜伏キリシタン関連遺産の構成資産の価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究・情報発信・意識醸成の取組の推進		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="120 140 1285 387"> ●実績の検証及び解決すべき課題 調査研究の成果のデジタル化を実施したものの、一部のみであるため、引き続きデータ化に取り組む必要がある。 世界遺産の価値と魅力の発信については、その理解を深めてもらうため、今後も継続して効果的な情報発信に努めていく必要がある。 意識醸成の取組として、世界遺産学習や県内大学との連携、構成資産地域が連携できる取組などを検討・実施してきた。 構成資産地域では保護の担い手不足・高齢化が懸念されており、今後は、地域住民含め、県民、自治体、来訪者に対するさらなる意識醸成の必要がある。 </td><td data-bbox="1285 140 2163 387"> ●課題解決に向けた方向性 世界遺産の価値を深める調査研究事業を継続するとともに、情報を正確に伝えて理解を促し、県民や来訪者の自発的な保護活動につなげるため、若者世代を中心として、引き続き効果的な情報発信(展覧会・講演会等)の実施や各種情報のデジタル化を進めていく。 世界遺産をみんなで守り伝えていくため、関係県市町や地元保護母体と一体となって保全等に取り組むとともに、清掃しながら「世界遺産巡礼の道」を歩くクリーンウォークを継続して実施するなどし意識の醸成を図っていく。 </td></tr> </table>	●実績の検証及び解決すべき課題 調査研究の成果のデジタル化を実施したものの、一部のみであるため、引き続きデータ化に取り組む必要がある。 世界遺産の価値と魅力の発信については、その理解を深めてもらうため、今後も継続して効果的な情報発信に努めていく必要がある。 意識醸成の取組として、世界遺産学習や県内大学との連携、構成資産地域が連携できる取組などを検討・実施してきた。 構成資産地域では保護の担い手不足・高齢化が懸念されており、今後は、地域住民含め、県民、自治体、来訪者に対するさらなる意識醸成の必要がある。	●課題解決に向けた方向性 世界遺産の価値を深める調査研究事業を継続するとともに、情報を正確に伝えて理解を促し、県民や来訪者の自発的な保護活動につなげるため、若者世代を中心として、引き続き効果的な情報発信(展覧会・講演会等)の実施や各種情報のデジタル化を進めていく。 世界遺産をみんなで守り伝えていくため、関係県市町や地元保護母体と一体となって保全等に取り組むとともに、清掃しながら「世界遺産巡礼の道」を歩くクリーンウォークを継続して実施するなどし意識の醸成を図っていく。
●実績の検証及び解決すべき課題 調査研究の成果のデジタル化を実施したものの、一部のみであるため、引き続きデータ化に取り組む必要がある。 世界遺産の価値と魅力の発信については、その理解を深めてもらうため、今後も継続して効果的な情報発信に努めていく必要がある。 意識醸成の取組として、世界遺産学習や県内大学との連携、構成資産地域が連携できる取組などを検討・実施してきた。 構成資産地域では保護の担い手不足・高齢化が懸念されており、今後は、地域住民含め、県民、自治体、来訪者に対するさらなる意識醸成の必要がある。	●課題解決に向けた方向性 世界遺産の価値を深める調査研究事業を継続するとともに、情報を正確に伝えて理解を促し、県民や来訪者の自発的な保護活動につなげるため、若者世代を中心として、引き続き効果的な情報発信(展覧会・講演会等)の実施や各種情報のデジタル化を進めていく。 世界遺産をみんなで守り伝えていくため、関係県市町や地元保護母体と一体となって保全等に取り組むとともに、清掃しながら「世界遺産巡礼の道」を歩くクリーンウォークを継続して実施するなどし意識の醸成を図っていく。		
iv	構成資産の保護を担う集落等が活性化するための活動支援及び大学連携によるフィールドワーク等の促進		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="120 421 1285 700"> ●実績の検証及び解決すべき課題 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度以降、地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で企画・検討・実施しているが、主に構成資産が所在する離島・半島地域では、人口減少や担い手不足が懸念されており、将来的に世界遺産の保護・継承を図ることが困難となる恐れがあることから、特に構成資産地域への訪問者増加や地域内消費拡大を図る取組を推進しながら、活動モチベーションを維持する必要がある。 また、全国的には近年、大学においては学生が主体的・実践的に学ぶ手法の一環としてフィールドワークが実践されており、実社会に活かせるような能力養成が行われている。本県においては、令和元年度から令和3年度にかけて、世界遺産構成地域において長崎大学及び長崎県立大学を対象にフィールドワーク事業を行っており、その実績とノウハウを今後大学が独自で行うフィールドワーク事業に継承させる必要がある。 </td><td data-bbox="1285 421 2163 700"> ●課題解決に向けた方向性 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度に地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で、企画・検討・実施した特産品販売会等について、令和5年度には本格的に実施したが、令和6年度は事業内容を改善してより効果的な取組になるよう調整する。 また、情報交流会及び構成資産地域の連携事業の将来的な自立定着化を見据え、関係する市町や地域団体との情報交流会の中でしっかりと話し合い、各構成資産地域が令和7年度以降も継続して連携した取組を行えるような、既存の組織を活用した体制づくりを目指す。 さらに、大学との連携や講演等の実施により、地域と大学がこれまでのノウハウを活かした独自の取組としてフィールドワーク事業を継続していくことを目指す。 </td></tr> </table>	●実績の検証及び解決すべき課題 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度以降、地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で企画・検討・実施しているが、主に構成資産が所在する離島・半島地域では、人口減少や担い手不足が懸念されており、将来的に世界遺産の保護・継承を図ることが困難となる恐れがあることから、特に構成資産地域への訪問者増加や地域内消費拡大を図る取組を推進しながら、活動モチベーションを維持する必要がある。 また、全国的には近年、大学においては学生が主体的・実践的に学ぶ手法の一環としてフィールドワークが実践されており、実社会に活かせるような能力養成が行われている。本県においては、令和元年度から令和3年度にかけて、世界遺産構成地域において長崎大学及び長崎県立大学を対象にフィールドワーク事業を行っており、その実績とノウハウを今後大学が独自で行うフィールドワーク事業に継承させる必要がある。	●課題解決に向けた方向性 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度に地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で、企画・検討・実施した特産品販売会等について、令和5年度には本格的に実施したが、令和6年度は事業内容を改善してより効果的な取組になるよう調整する。 また、情報交流会及び構成資産地域の連携事業の将来的な自立定着化を見据え、関係する市町や地域団体との情報交流会の中でしっかりと話し合い、各構成資産地域が令和7年度以降も継続して連携した取組を行えるような、既存の組織を活用した体制づくりを目指す。 さらに、大学との連携や講演等の実施により、地域と大学がこれまでのノウハウを活かした独自の取組としてフィールドワーク事業を継続していくことを目指す。
●実績の検証及び解決すべき課題 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度以降、地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で企画・検討・実施しているが、主に構成資産が所在する離島・半島地域では、人口減少や担い手不足が懸念されており、将来的に世界遺産の保護・継承を図ることが困難となる恐れがあることから、特に構成資産地域への訪問者増加や地域内消費拡大を図る取組を推進しながら、活動モチベーションを維持する必要がある。 また、全国的には近年、大学においては学生が主体的・実践的に学ぶ手法の一環としてフィールドワークが実践されており、実社会に活かせるような能力養成が行われている。本県においては、令和元年度から令和3年度にかけて、世界遺産構成地域において長崎大学及び長崎県立大学を対象にフィールドワーク事業を行っており、その実績とノウハウを今後大学が独自で行うフィールドワーク事業に継承させる必要がある。	●課題解決に向けた方向性 構成資産地域同士が連携した取組について、令和4年度に地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会の中で、企画・検討・実施した特産品販売会等について、令和5年度には本格的に実施したが、令和6年度は事業内容を改善してより効果的な取組になるよう調整する。 また、情報交流会及び構成資産地域の連携事業の将来的な自立定着化を見据え、関係する市町や地域団体との情報交流会の中でしっかりと話し合い、各構成資産地域が令和7年度以降も継続して連携した取組を行えるような、既存の組織を活用した体制づくりを目指す。 さらに、大学との連携や講演等の実施により、地域と大学がこれまでのノウハウを活かした独自の取組としてフィールドワーク事業を継続していくことを目指す。		
v	構成資産や信仰の場を守るための教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入体制の整備		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="120 734 1285 879"> ●実績の検証及び解決すべき課題 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産集落や教会堂は現在も生活・生業・信仰の場であり、来訪者が地域住民の暮らしを阻害することのないよう、秩序ある来訪を促し、適切に受け入れる仕組みが必要であり、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターを中心とした事前連絡の運用により、適切な受入が実施できている。 </td><td data-bbox="1285 734 2163 879"> ●課題解決に向けた方向性 引き続き、インフォメーションセンター、大司教区、関係県市町と連携し、受入体制の充実を図っていく。 </td></tr> </table>	●実績の検証及び解決すべき課題 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産集落や教会堂は現在も生活・生業・信仰の場であり、来訪者が地域住民の暮らしを阻害することのないよう、秩序ある来訪を促し、適切に受け入れる仕組みが必要であり、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターを中心とした事前連絡の運用により、適切な受入が実施できている。	●課題解決に向けた方向性 引き続き、インフォメーションセンター、大司教区、関係県市町と連携し、受入体制の充実を図っていく。
●実績の検証及び解決すべき課題 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産集落や教会堂は現在も生活・生業・信仰の場であり、来訪者が地域住民の暮らしを阻害することのないよう、秩序ある来訪を促し、適切に受け入れる仕組みが必要であり、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターを中心とした事前連絡の運用により、適切な受入が実施できている。	●課題解決に向けた方向性 引き続き、インフォメーションセンター、大司教区、関係県市町と連携し、受入体制の充実を図っていく。		
vi	港のにぎわい創出による地域の活性化の推進		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="120 912 1285 1018"> ●実績の検証及び解決すべき課題 港湾の周辺環境を改善し交流人口の拡大を図るため、港湾環境整備事業として緑地整備を進めている。 </td><td data-bbox="1285 912 2163 1018"> ●課題解決に向けた方向性 目標を達成しており、事業の効果が見られることから、今後も引き続き事業推進を図っていく。 </td></tr> </table>	●実績の検証及び解決すべき課題 港湾の周辺環境を改善し交流人口の拡大を図るため、港湾環境整備事業として緑地整備を進めている。	●課題解決に向けた方向性 目標を達成しており、事業の効果が見られることから、今後も引き続き事業推進を図っていく。
●実績の検証及び解決すべき課題 港湾の周辺環境を改善し交流人口の拡大を図るため、港湾環境整備事業として緑地整備を進めている。	●課題解決に向けた方向性 目標を達成しており、事業の効果が見られることから、今後も引き続き事業推進を図っていく。		
vii	サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="120 1051 1285 1286"> ●実績の検証及び解決すべき課題 島原半島のサイクリスト受入環境整備に向けて、地元自治体等と協議を行い、令和4年度から県・3市(島原市・雲仙市・南島原市)と連携し、島原半島観光連盟を事業主体として取り組んでいるが、自転車文化を根付かせるために、今後も地域の機運醸成が必要である。また、その他の地域においても、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げを検討する必要がある。 </td><td data-bbox="1285 1051 2163 1286"> ●課題解決に向けた方向性 島原半島のサイクリスト受入環境整備について、地元での機運醸成や県内外への情報発信、サイクルラックの設置などをさらに推進するほか、サイクルガイドの養成やレンタサイクルを増加させる必要がある。 その他の地域では、大村湾南部地域において、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げのため、コースの試走などを行い、意見交換をするなど、関係自治体等との協議を引き続き実施しながら、地域の機運醸成を図っていく。 </td></tr> </table>	●実績の検証及び解決すべき課題 島原半島のサイクリスト受入環境整備に向けて、地元自治体等と協議を行い、令和4年度から県・3市(島原市・雲仙市・南島原市)と連携し、島原半島観光連盟を事業主体として取り組んでいるが、自転車文化を根付かせるために、今後も地域の機運醸成が必要である。また、その他の地域においても、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げを検討する必要がある。	●課題解決に向けた方向性 島原半島のサイクリスト受入環境整備について、地元での機運醸成や県内外への情報発信、サイクルラックの設置などをさらに推進するほか、サイクルガイドの養成やレンタサイクルを増加させる必要がある。 その他の地域では、大村湾南部地域において、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げのため、コースの試走などを行い、意見交換をするなど、関係自治体等との協議を引き続き実施しながら、地域の機運醸成を図っていく。
●実績の検証及び解決すべき課題 島原半島のサイクリスト受入環境整備に向けて、地元自治体等と協議を行い、令和4年度から県・3市(島原市・雲仙市・南島原市)と連携し、島原半島観光連盟を事業主体として取り組んでいるが、自転車文化を根付かせるために、今後も地域の機運醸成が必要である。また、その他の地域においても、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げを検討する必要がある。	●課題解決に向けた方向性 島原半島のサイクリスト受入環境整備について、地元での機運醸成や県内外への情報発信、サイクルラックの設置などをさらに推進するほか、サイクルガイドの養成やレンタサイクルを増加させる必要がある。 その他の地域では、大村湾南部地域において、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げのため、コースの試走などを行い、意見交換をするなど、関係自治体等との協議を引き続き実施しながら、地域の機運醸成を図っていく。		

4. 令和6年度見直し内容及び令和7年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和6年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和6年度の新たな取組は「R6新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載	令和7年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i	○	1	「みんなで磨き！観光まちづくり」推進事業費	昨年度から実施している事業計画策定支援に加え、各地区担当職員が定期的に地域での取組の進捗状況を把握し、必要に応じて、観光の専門家の意見を取り入れる等、サポート体制を強化し、持続可能な観光まちづくりの取組につなげていく。	②	昨年度から、補助事業採択に向け、観光の専門家との意見交換を複数回実施するなど市町等実施主体による取組の磨き上げ等の支援をした結果、市町等からの評価は高いが、業務負担も大きいため参加団体の負担にならないよう効果的・効率的な手法に見直していく。	改善
			H13-				
			観光振興課				
取組項目 ii	○	2	ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業費	車椅子・ベビーカーのレンタルシステム構築等による業務の効率化を図るとともに、さらなる誘客に向けてSNSによる情報発信の強化やモデルコースの充実等に取り組む。	②	日々の相談業務での利用者の声や情報発信の効果検証などから観光客のニーズ分析を進め、必要とされるセンター機能・体制の強化等の検討を行っていく。	改善
			R2-7				
			観光振興課				
取組項目 iii iv		3	世界遺産を未来につなぐプロジェクト事業費	令和6年度の構成資産地域による連携事業については、世界遺産関連商品を集めた特産品イベントを初めてJR長崎駅の構内で開催するほか、新たに世界遺産地域の観光周遊を促進する取組として世界遺産「巡礼の道」を活用したガイドツアーを行うなど、より効果的な取組を企画・実施する。 また、情報交流会の組織については、令和7年度以降の協議会化を含めた検討を情報交流会の中で行い、情報交流会及び構成資産地域の連携事業の将来的な自立定着化を見据え、各構成資産地域が今後も継続して連携した取組を行えるような体制づくりを目指す。	②	これまで、地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会を開催し、構成資産地域同士のつながりの強化や情報共有、意識向上等を図るとともに、世界遺産全体として連携できる取組の企画・検討・実施をしてきたが、今後は当事業を世界遺産情報発信事業費に統合し、既存の世界遺産関係組織の中に情報交流会メンバーを会員とした部会を追加することを含めて検討を進め、構成資産地域がより主体的に動き、構成資産地域同士の連携事業を継続していくことで、本県への訪問者の増加や、地域の消費拡大によるプラスの循環につながる流れを目指す。 また、小中高生向けの世界遺産学習や、地元キーマン・自治体職員へのオンラインを活用した講座等を引き続き行い、将来世代に向けた世界遺産の保護意識醸成等を図る。	統合
			R5-6				
			文化振興・世界遺産課				
取組項目 iii v	○	4	世界遺産情報発信事業費	調査研究成果のさらなる活用に向けた各種情報のデジタル化を進めるとともに、モニタリングシステム構築により、(1)来訪者意欲を高める魅力的な情報発信(2)世界遺産構成資産の現状等の顕在化・発信による、地域住民の保護意識の醸成(3)デジタル技術を活用した構成資産の各要素の記録保存を実施する。	②	世界遺産登録5周年記念事業をきっかけに新たに訴求した層に向けて正しい価値と構成資産地域の魅力発信を行うとともに、令和6年度に構築するモニタリングシステムを活用しながら、引き続き世界遺産構成資産地域の魅力発信を行い、世界遺産の正しい価値理解促進を図るとともに、関係各所と連携して更なる保護意識の醸成を図る。	改善
			H19-				
			文化振興・世界遺産課				
取組項目 vi	○	6	港湾環境整備費(公共)	—	—	港湾環境として緑地を整備することにより、港のにぎわいを創出し、地域活性化に寄与することから、令和7年度も引き続き事業を継続する。	現状維持
			H13-R7				
			港湾課				
取組項目 vii	○	7	サイクルツーリズム推進事業費	島原半島においては、引き続き財政的支援や助言を行い、サイクリングルートの充実や地域の機運醸成などサイクリストの受入環境整備を進めていく。大村湾南部地域については、ルート上の自治体や関係団体等と試走会や意見交換会を行い、今後の活用について協議を行う。 また、九州・山口サイクルツーリズムにおいては、国際サイクルイベントの本県開催を検討する。	②⑤⑥	島原半島地域においては、受入環境整備の大方の完了に向けて取り組むとともに、国内外からのサイクリストの誘客に向けて、PR・プロモーションを関係者と連携して取り組む。 大村湾南部地域は関係自治体と連携し、サイクリスト受入環境整備の計画策定や地域の機運醸成について協議を行い、実施主体の立ち上げを検討する。 九州・山口サイクルツーリズムについては佐世保市と連携し、「ツール・ド・九州2025」の本県開催に向けた準備を行う。	改善
			R4-7				
			スポーツ振興課				

注:「2. 令和5年度取組実績」に記載している事業のうち、令和5年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点